



## 「化学遺産」について

化学遺産とは、公益社団法人 日本化学会の化学遺産委員会が、わが国の化学関連の歴史資料の中でも特に貴重な資料を世界に誇るべき遺産として認定する制度です。

平成25年度(第5回)の化学遺産認定において、幸福寺所蔵資料の他に、造幣博物館(大阪)所蔵資料、早稲田大学図書館・桂川今泉文庫所蔵資料が合わせて、「化学技術者の先駆け 宇都宮三郎資料」として、化学遺産に認定されました。

## 宇都宮三郎-略伝-(1834~1902)

天保5年、尾張藩士神谷半右衛門義重の三男として生まれる。幕府の洋書調所などに出仕し、初めて「化学」の名称を公式に採用させた。維新後は明治政府に雇われ、セメント・炭酸ソーダの国産化、耐火煉瓦製造、藍の製造法改良、電柱の防腐方法の開発などを行い、殖産興業・近代技術の発展に大きく貢献した。その他民間においても、竈や醸造法の改良など、幅広い分野において足跡を残している。明治35年、肺結核により死去。豊田市畝部西町の幸福寺に葬られている。

## 当日の日程

午後1時30分~

受付開始

午後2時~3時

講演「化学技術者の先駆け  
宇都宮三郎資料の化学遺産認定」

講師 新井和孝(あらいかずたか)氏

日本化学会化学遺産委員会委員  
化学史学会理事、日本化学会元理事、理学博士



午後3時~3時30分

ミニシンポジウム「宇都宮三郎を語る!」

午後3時30分~4時

資料閲覧

問い合わせ先 主催：地域人文化学研究所(代表理事 天野博之)  
TEL : 090-6804-9868 / mail : catalyst-r@live.jp  
会場：高正山幸福寺 TEL : (0565)21-4329

## 展示資料の一部紹介



宇都宮三郎佩刀拵



奉書箱



辞令類